

中国に流行する分類系ネット流行語の生成及び流行原因の再考察

——近代化におけるアイデンティティ変容と消費社会に着目して——

首都大学東京 張少君

1 本報告の背景及び目的

この報告の目的を理解してもらうために、まず背景を説明しなければならない。2011年から、中国の流行語においては新しい特徴が現れてきた。インターネットにより作られた一連のネット流行語は絶大な人気を博した。これらのネット流行語は人間(主には若者)の様々な属性を分類する。例えば、モテる人とモテない人、女らしい女性とあまり女らしくない女性、処女または性交渉の少ない人と性交渉の多い非処女な人などに内容を分類するネット流行語が現れてきた。また、このようなネット流行語の一部分のニュアンス及び使い方は独特である。簡単に言えば、いい意味の流行語は他人に呼び、ネガティブな意味が含まれる流行語を自分に名乗る傾向をみえる。こうしたネガティブな意味を持つ分類系ネット流行語の高い人気と使い方における自虐傾向は中国流行語の歴史及び若者文化における新しい現象である。この報告の目的は、近年の中国における分類系ネット流行語ブームの生成及び流行原因に対する考察として近代化におけるアイデンティティ変容と消費社会視点から考える可能性を提示することである。

2 本報告の議論の内容

本報告はまず、中国の分類系ネット流行語の中から代表的な一部の流行語を列挙し、特徴についてを説明しておきたい。そこで、近年の中国の分類系ネット流行語及び若者文化に関する中国の社会科学諸分野の先行研究の論点をまとめる。そのうえで、先行研究と現実(筆者の調査の一部結果および一連の現実の事例)との間に明らかに存在するズレを言及する。最終的に、分類系流行語の中身は近代化におけるアイデンティティ変容および中国の消費社会の位相との関連性を考察することを試みる。研究の方向性および今後の重要な課題は最後に提示する。

3 結論

分類系ネット流行語についての中国の先行研究は、中国の若者の格差問題(中国の経済格差及び中国若者の精神面の落差)とネット流行語の関係に対する研究に偏っていた。だが、このような研究は分類系ネット流行語の機能について説明するにはあまりに不十分である。先行研究により定義された分類系ネット流行語の使用者の範囲も実際の使用者の範囲よりはるかに狭い。要するに、「なぜ全国の若者が様々な分類系ネット流行語を愛用し、時に一部の分類系ネット流行語を名乗るのか」という問題に対し、経済地位の弱者層の不満あるいは使用者の精神面の劣化を原因と見ることは事実と合っていない。一方、報告者は中国の分類系流行語の中身は近代化におけるアイデンティティ変容に関する理論との合致性、そして、日本80年代高度消費社会の若者文化の特徴と今日中国の分類系ネット流行語ブーム時期の若者文化における極めて共通した部分を指摘する。また、近代化におけるアイデンティティ変容と消費社会の影響による分類系ネット流行語の生成および流行の必然性を示唆する。